1　東京港での、環境対策としてこれまで取り組んできた、コンテナふ頭での対策（リーファーコンテナの温度管理の徹底、ハイブリッドヤードクレーンの導入、太陽光発電パネルの設置など）や埋立地での海上公園の整備、浅場造成による藻場形成、緩傾斜護岸整備による水域環境の改善などに関して、CO_2 の削減効果とその評価を,まずは明らかにしておく必要がある。

2　計画の対象範囲について、臨港地区である新木場と、前面のコンテナふ頭と一体で利用されている品川ふ頭背後のバン・シャーシープールを入れていない理由を明確にすべきである。

3　多くの対策が他から導入する再エネ電力に依存しているので、港湾管理者として、中央防波堤外側埋立地の斜面や旧貯木場の水面などを利用した大規模太陽光発電とともに中央防波堤外側埋立地や新海面処分場の護岸敷を利用した大規模風力発電などに取り組む必要あると考える。

4　ヤードクレーンについて、再エネ電力を使った電動方式も選択肢と思われるが、水素を主体とする方針に至った考え方を明確にしておく必要がある。

5　藻場等の生育実証と将来の拡大を見据え、羽田沖や旧貯木場水面など、対象水域の位置と規模を明らかにしておく必要がある。

6　次世代型トラクターヘッド等の開発・実証を進めるとしているが、開発・実証に当たっては東京港内で発電された再エネ電力の活用もセットで考えるのが有効ではないか。